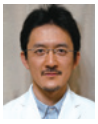
内科専門医プログラム

定員 30名

内科プログラム統括責任者
血液内科専門医
腎臓内科専門医／リウマチ専門医
プログラム責任者
髙橋　直人 教授



脳神経内科専門医
プログラム責任者
華園 晃 病院講師

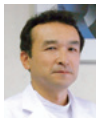
糖尿病、内分泌・代謝、
老年科専門医
プログラム責任者
脇　裕典 教授

感染症専門医
プログラム責任者
嵯峨　知生 病院教授

プログラム管理者
長谷川　仁志 教授

循環器専門医
プログラム責任者
渡邊　博之 教授

腫瘍内科専門医
プログラム責任者
柴田　浩行 教授



研修委員会委員長
消化器病専門医
プログラム責任者
飯島　克則 教授

呼吸器専門医
プログラム責任者
中山　勝敏 教授

専門研修担当者連絡先	長谷川　仁志　教授 工藤 佳菜子（総務課）　TEL.018-884-6233 E-mail　kenshuu@hos.akita-u.ac.jp

プログラムの特徴

経験豊富な各科多数の指導医と充実した研修体制で内科専門医とサブスペシャルティ専門医、さらには医学博士の取得をしっかりサポートします。研修医数に合わせて、専門医取得のための適切な症例経験数を保証します。社会人大学院を含めワークライフバランスをメンターとともに考え、一人一人の専攻医にあった研修プランを設計できます。

医学、医療の本道は内科であり、そこから始まる様々な領域で社会に貢献することができます。生涯の長きにわたり内科専門医は一生が勉強です。その一方で、時期を逸せず今この時期に求められることもあります。私たちと一緒に研修を確実に進めましょう。

プログラムの説明

内科専門医受験に必要な内科各分野160症例を、大学各科と関連施設各科と連携して経験します。そのうち初期研修中の各分野の主治医経験例を最大80例まで登録できますので、有効に初期研修を行うことをお勧めします。

1 内科ローテートコース

サブスペシャルティが決まっていない医師向けに、希望に応じて内科各分野を数ケ月ずつローテートし修練するコースです。サブスペシャルティが決まった段階で、2のサブスペシャルティ重点コースに変更可能です。

2－① サブスペシャルティ重点コース（推奨）

当初から内科系サブスペシャルティ専門科に所属して、内科専門医とサブスペシャルティ専門医取得を目指すプログラムです。大学各科及び関連施設各科と連携して、3年間で内科専門医に必要な症例を経験し、並行してサブスペシャルティの経験も重ねる推奨コースです。

2－② サブスペシャルティ重点 ＋ 医学博士取得コース（推奨）

上記2－①に加えて社会人大学院に入学し、臨床を行いながら内科専門医、サブスペ専門医に加えて医学博士取得を目指すコースです。経験豊富な多くの指導医がしっかりサポートしますので安心して研修できます。世界と直結した臨床と研究を修練して、生涯にわたる長い医師人生として必要な実績をこの時期にしっかり経験することを推奨します。

■取得までのキャリアパス

内科専門医取得のための登録症例経験値　160例（大学および関連病院各科連携）				内科サブスペシャルティ専門医取得のための経験値の例（大学および関連病院各科連携）			
初期研修2年間	1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）	4年目（卒後6年目）	5年目（卒後7年目）	6年目（卒後8年目）	7年目～（卒後9年目）
初期研修期間中に80例までの登録可能。（3年目以降の専門研修につなぐ貴重な症例を経験する。）	1. 内科ローテートコース（サブスペシャルティ決定次第2に移行可能）			内科サブスペシャルティ			
	2-① サブスペシャルティ重点コース（サブスペに所属しながら適宜各科連携して症例経験）			内科サブスペシャルティ			
	2-② サブスペシャルティ重点＋医学博士取得コース			内科サブスペシャルティ			
	医学系社会人大学院（専門研修を行いながら4年間の研究期間を相談の上設定）						

サブスペシャルティ
1. 消化器病、肝臓
2. 脳神経内科
3. 循環器
4. 呼吸器
5. 血液
6. 腎臓
7. リウマチ
8. 糖尿病
9. 内分泌・代謝
10. 老年病
11. 感染症
12. アレルギー
13. がん薬物療法

主治医経験症例登録終了（初期と合わせて160症例）

内科専門医試験受験

サブスペ専門医試験受験

大学院4年終了 医学博士取得

各サブスペシャルティ専門研修の詳細・連絡先は、次のページからの内科系の各科サブスペシャルティ専門研修のページをご参照ください。